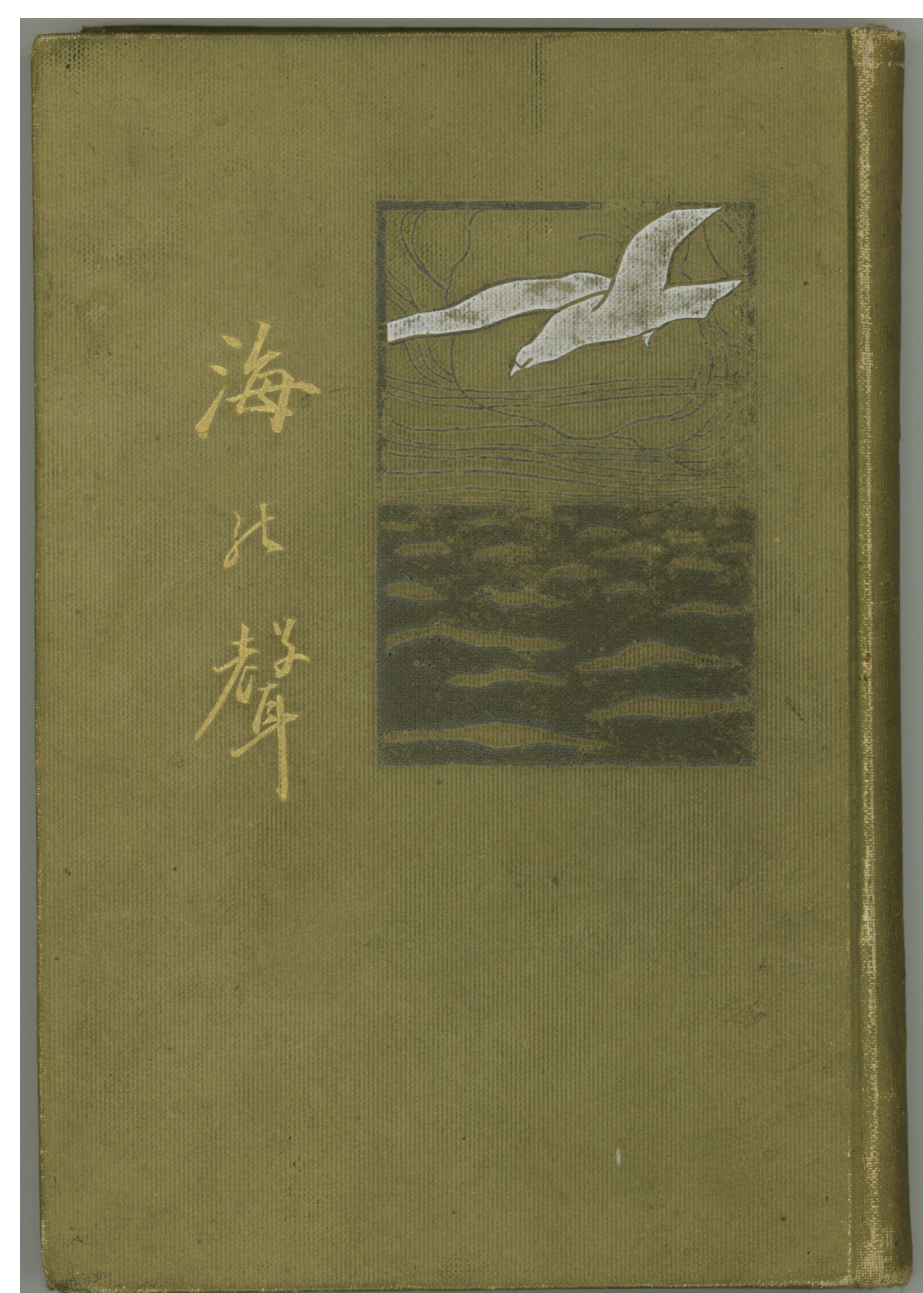


収蔵資料から

其の87 第1歌集『海の声』



明治41年7月に発表された牧水最初の歌集です。明治39年春から41年春にかけて詠まれた475首が収められ、「幾山河」や「白鳥は」等、牧水を代表する歌が登場します。また、多くの恋歌で構成されており、まさに青春歌集と呼べる一冊です。

早稲田大学卒業と同時に発表された記念すべき歌集は、十分な出版費用を準備できず、わずか700冊しか印刷できなかった上に、宣伝不足から300冊も売れませんでした。そのため、文壇からの反響は殆どありませんでした。第2歌集でも同じ状況だったため、2冊を再編集して発表した第3歌集『別離』を、牧水最初の歌集と思う人が多くありました。(荒砂)

牧水歌碑めぐり

其の88 銀河公園（長野県）

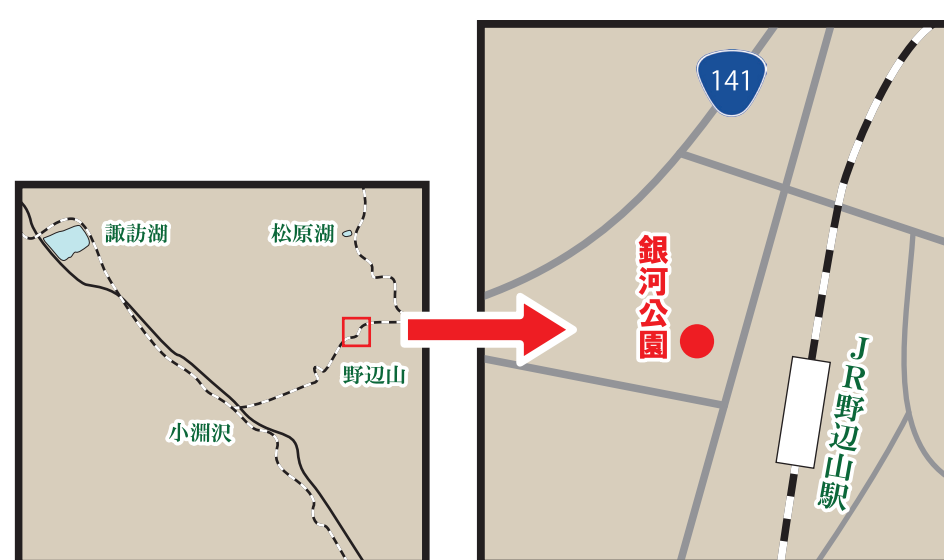


※8面のうち、7面に牧水の歌が1面に碑誌が刻まれている。平成6年建立

野末なる山に雪見ゆ冬枯の
大空の深きもなかに登えたる
峰のたかきに雪降りけり
人いまだゆかぬ枯野の今朝の霜を
踏みわがゆくひたに真直ぐに
わが行くや見る限りなる霜の野の
すすき枯れ伏し眞しき野辺を
はりはりとわが踏み裂くやうちわたす
枯野がながの路の水を
枯れて立つ野辺のすすきに結べるは
水にまがふあらけき霜
わが袖の触れつつ落つる路ばたの
すすきの霜は音立てにけり

大正12年、牧水は長野の友人から誘いを受け、長野県南部の松原湖、野辺山周辺へ出かけます。この歌は、南牧村から千曲川に沿って埼玉へ向かう時に詠んだものです。

歌碑は山梨県境近く、JR野辺山駅に隣接する銀河公園に建てられました。当初、8ヶ所に建てる計画でしたが、牧水の長男旅人が「見る方も建てる方も大変なので、8面体にしたらどうか」と提案し、現在の形になったそうです。歌は旅人の書によります。(荒砂)



文学館だより

令和6年 4月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高 第96号

令和6年度始動 今年度も牧水顕彰活動にご協力をお願いします

若山牧水生誕140年、第75回牧水祭、若山牧水記念文学館開館20年を来年に控え、今年度はその準備期間と位置づけて活動していきます。



【企画展（企画展示室）】

日程	主な内容	
4月～6月	牧水の食	※令和6年度企画
7月～8月	牧水の花鳥風月	※平成29～30年度開催
9月～10月	牧水記念館ができるまで	※令和2年度開催
11月～12月	三浦家寄贈資料公開展 繁と敏夫	※令和3年度開催
11月～1月	榎倉香郵遺作展	※令和4年度開催
11月～12月	第29回若山牧水賞	※10月に発表される第29回受賞者を展示
11月～13月	文学ノート拝見	※令和4年度開催

「これまでの企画展再来」と銘打ち、過去開催してきた企画展を再構成し展示していきます。もう一度観ていただきたいものばかりです。興味あるものはごさいませんか。

【主な事業】

4月～7.31(水)	第14回 青の國若山牧水短歌大会作品募集	一般題詠「問」
12.15(日)	第14回 青の國若山牧水短歌大会表彰式	
8.17(土)～18(日)	第14回 牧水・短歌甲子園	
9.17(火)	第74回 牧水祭	
6.19(水)	第1回 伊藤一彦短歌実作講座	
8.21(水)	第2回 伊藤一彦短歌実作講座	
11.20(水)	第3回 伊藤一彦短歌実作講座	
7月～9月	第13回 高森文夫を偲ぶ詩大会作品募集（市内小4～6年生）	
1.19(日)	第13回 高森文夫を偲ぶ詩大会表彰式	

日向市報、若山牧水ホームページ (https://www.bokusui.jp) 等で随時案内していきます。

「三世代のいちごつみ 短歌でつなぐ365日」 学んでいます

令和6年1月1日にスタートした「三世代のいちごつみ 短歌でつなぐ365日」、ご存知の方も多いいと思います。我が伊藤一彦館長、歌人乃上あつこ氏、歌人久永草太氏の3人が毎日順番に一首を詠みつないでいく短歌リレー。今日の歌は難しい、という日も多い私ですが、三世代3人の歌を毎日楽しく読んでいます。

いとうかずひこ 伊藤一彦	のがみ 乃上あつこ	ひさながそうた 久永草太
○宮崎市生まれ、宮崎市在住。 ○若山牧水記念文学館長。 ○若山牧水研究者。 ○1943年生まれの80歳。 ○昨年度、文学館にて「伊藤一彦展」を開催。 ○「三世代のいちごつみ」では祖父ポジションを務める。	○横浜市生まれ。 ○2014年から短歌を始める。 ○牧水研究会、現代短歌南の会「梁(りょう)」に所属。 ○三人の中で唯一のいちごつみ経験者。 ○「三世代のいちごつみ」では母ポジションを務める。	○宮崎市生まれ、宮崎市在住。 ○宮崎西高で短歌を始め、牧水・短歌甲子園に出場。 ○宮崎大学在学中に第34回歌壇賞を受賞。 ○牧水・短歌甲子園 OBOG 会「みなと」に所属。 ○「三世代のいちごつみ」では孫ポジションを務める。

「いちごつみ」は短歌をリレーしていく遊びのひとつです。前の人が詠んだ歌から好きな一語(いちご)を摘んできて、その一語を詠み込んで歌を作る、そしてまた次の人へ、と短歌を詠みつないでいきます。相手の言葉の畑から一語を取獲できるので、普段自分があまり使わないような言葉と出会えることが「いちごつみ」の面白さです。(三世代のいちごつみサイトより引用)

1/1 No.1 八十まで夢の一期を狂ふなく生きて元旦酒もて罰す
1/2 No.2【夢】 浴々と瀧ざりたる新春の夢、歌、ことば、遊戯のころ
1/3 No.3【遊戯】 遊戯せる湯気を見上げてとっふりと肩までつかる朝風呂の朝

に始まり、

3/27 No.87【甘】 ほどく紐ほどける紐の甘やかにするする桜始開
3/28 No.88【ほどける】 左足ばかりほどけて靴紐に注目獲得行動の春
3/29 No.89【左】 火事のごと燃ゆる桜に灼かれつつ身のおぼろなる左党一彦

と続いています。4月も楽しみです。
初めての方、「三世代のいちごつみ」を一度検索してみませんか。

求む！ 牧水顕彰会会員 私たちと一緒に牧水の足跡を後世に伝えていきませんか

日向若山牧水顕彰会は事務局を若山牧水記念文学館に置き、若山牧水の偉業・足跡をより多くの方々にお伝えすることを目的としています。本顕彰会は、昭和26年に結成され、72年という歳月を重ね、一度も途絶えることなく今に引き継がれています。会の目的に賛同される方、会の事業を援助される方は、ご入会をお願いいたします。

【会費】正会員 年額 1口 1,000円
賛助会員 年額 1口 10,000円

【特典】1 会員証を発行し、会報「みなかみ」をお届けします。
2 若山牧水記念文学館への入館料が無料となります。
3 関連行事の案内等、牧水顕彰情報を提供いたします。



会の目的に賛同される方、会の事業を援助して下さる方は加入をお願いします。

情報をお寄せください 「うちにこんなもん、あるよ」

「祖母が(曾祖母が)牧水の姉の・・・」から始まり、牧水に縁ある方が来館された時、牧水ゆかりの話聞かせてくださったり、などということがここ数年続いています。そこで、牧水について、

聞いたことがある・・・直筆手紙がある・・・若山家からもらったものがある・・・
近くに牧水歌碑がある・・・牧水グッズを持っている・・・牧水コレクション・・・
うちの父は(孫は)牧水そっくり・・・自作牧水かるた・・・などなど
「うちにこんなもん、あるよ」情報をお寄せください。

情報提供

若山牧水記念文学館宛メールにてお願いします
bokusui5akugare@gmail.com 画像添付をお願いします



牧水先生の一首 折に触れて出会う一首を紹介しています

風光り桜みだれて顔に散るころ汗ばみ夏をおもへる
かせひかり さくらみだれて かおにちる ころろあせばみ なつをおもえる

明治43年4月詠草。牧水25歳。
「いちはやく四月の街に青く匂ふ夏帽子をばうちかづきけり」と並んで、第4歌集『路上』に収録されている。
明治43年といえば、3月に牧水編集による短歌誌「創作」が創刊された年である。「創作」は、牧水亡き後も喜志子夫人、長男旅人氏、次男富士人氏に脈々と引き継がれていった。最後は牧水の孫(旅人氏長男)聚一(しゅういち)氏に引き継がれ、令和元年9月、106巻第3号「終刊記念号」をもって通算109年、実質106年の幕を下ろした。

風光り桜みだれて顔に散る
ころろあせばみ夏をおもへる
かせひかり

牧水

企画展「牧水と食」開催中 牧水の味わった「食」を紹介

【会期】6月30日(日)まで

故郷や東京・沼津、旅先での「食」に関する短歌や散文等を紹介しています。また、延岡時代の日記(複製)や若山家の重箱展示ほか、最晩年の献立を書いた文章なども紹介しています。(荒砂)



第14回青の國若山牧水短歌大会 今回の題詠は「問」です

【募集対象】

- 一般の部(自由題、題詠「問」)
※それぞれ一人1首応募できます。
- 小・中・高校生の部
※県内の児童生徒が応募できます。

【応募方法】

- ハガキまたは封書で応募。
- メールで応募。
※応募用紙は文学館ほかホームページから入手できます。

【しめきり】

- 令和6年7月31日(水)
※郵送の場合、当日消印有効です。

詳しい応募方法などはホームページをご覧ください。
皆様からのたくさんの応募、お待ちしております。(荒砂)

若山牧水記念文学館 令和6年4月1日発行 宮崎県日向市東郷町坪台1271番地

■若山牧水記念文学館 利用案内■
【開館時間】9:00～17:00 (入館は16:30まで)
【休館日】月曜日(祝日は除く) 年末年始(12月29日～1月3日)
【入館料】小・中学生/100円 高校生以上/310円(20名以上の団体は2割引)
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp

